



2016年9月28日(水)

報道各位

第6回「クリエイターズ殿堂」決まる
川崎徹、大森昭男、五井千鶴子、
秋山晶、郡家淳の5氏

一般社団法人 全日本シーエム放送連盟（略称：ACC、東京都港区、理事長：高田坦史）は、第6回「クリエイターズ殿堂」入りクリエイターを川崎徹、大森昭男、五井千鶴子、秋山晶、郡家淳の5氏に決定致しました。（選考理由は別紙）

ACCではCM表現の向上に関する事業の一環として、1983年7月に「ACCパーマネントコレクション」（通称：CM殿堂入り作品）を制定し、歴史に残る優れたCMを殿堂入り作品として選考して来ました。CM作品が殿堂入りすると同時に、このような優れたCMを長年作り続けたクリエイターにも焦点を当てるべき、との考えから、2010年にACC創立50周年を記念して「クリエイターズ殿堂」を創設致しました。

杉山恒太郎選考委員長はじめ計6名（別紙）の選考委員が選考会を開き、第6回「クリエイターズ殿堂」入りクリエイター5氏を選考し、9月28日（水）の理事会で正式に決定されました。

贈賞は11月1日（火）に開催する2016 56th ACC CM FESTIVAL 贈賞式（ANAインターコンチネンタルホテル東京：溜池）にて行う予定です。また、クリエイターズ殿堂入りしたクリエイターの作品は、アド・ミュージアム東京（東京都港区）、放送ライブラリー（横浜市）で閲覧出来るようになっており、今回殿堂入りした5氏の作品についても同様に閲覧可能にする予定です。

以上

この件に関するお問い合わせ先
一般社団法人 全日本シーエム放送連盟
〒105-0003 東京都港区西新橋 2-4-2 西新橋安田ユニオンビル 6F
TEL : 03-3500-3261 FAX : 03-3500-3263
URL <http://www.acc-cm.or.jp>
担当：梅津樹一

<第6回クリエイターズ殿堂 選考理由、プロフィール>

川崎徹（かわさき とおる）氏



<選考理由>

1980年代、さまざまな広告クリエイターが脚光をあびる中、「川崎徹の時代」というものが確かにあった。世の中が建前だけでは動かなくなった時代。「建前」をひっくり返し、「キレイゴト」の裏にあるものを、からかい、遊んだ。次々とヒットCMを生み出し、「トンデレラ・シンデレラ」等数々の流行語が生まれた。広告ブームを作った中心的人物。閉塞状況にあった当時のCM界に大きな風穴を明け、CMそのものを大きく変えた人である。

<プロフィール>

演出家・小説家。1948（昭和23）年東京生まれ。1982（昭和57）年郡家淳、山本雅臣、関谷宗介と(株)マザースを設立。1980年代以降「よろしいんじゃないですか」「いいなあーアレ」「一般大衆」「会社の方針」「ヤリ貝クン」等流行語を生んだCMを演出。主な受賞作品はナショナル・トランザム「高見山」（1978年ACC全日本CM大賞<現：ACCグランプリ>）、フジカラー・プリント「お名前（美しい人はより美しく、そうでない方はそれなりに）」（1980年ACC全日本CM大賞<現：ACCグランプリ>）等。現在は小説を執筆。主な著書に「石を置き、花を添える」、「猫の水につかるカエル」、「会話のつづき」、「最後に誉めるもの」、「ムラカミのホームラン」（講談社）等。

大森昭男（おおもり あきお）氏



<選考理由>

三木鶏郎がパイオニアとして道を切り拓いたCM音楽の世界。1980年代、その流れを大きく変えたプロデューサーがいた。坂本龍一、大瀧詠一、山下達郎など才能あふれるミュージシャンを発掘し、起用。それまでのCM音楽とはまったく異質なその音楽は、時代を牽引し、若者の心を強くとらえた。まさに、日本のCM音楽そのものを大きく変えた人である。



<プロフィール>

1936（昭和 11）年 1 月 7 日、山梨県生まれ。1960（昭和 35）年三木鶏郎主宰「冗談工房」入社。1965（昭和 40）年作曲家・桜井順と「ブレーン JACK」設立。1972（昭和 47）年（株）ON・アソシエイツ音楽出版創立。資生堂の 70～80 年代キャンペーンソング「サクセス」「時間よ止まれ」「君の瞳は 10000 ボルト」「夢一夜」「A 面で恋をして」、アサヒビール「三ツ矢サイダー」シリーズ、サントリー「ワインレッドの心」「ウィスキーがお好きでしょ」、AGF「熱き心に」、清水建設「パパの手の歌」SONY「LIBERTY」他。音楽家、映像作家、コピーライターたちとの出会いの中で手仕事感覚の制作姿勢を大切に歩んでいる。

五井千鶴子（ごい ちずこ）氏



<選考理由>

文化放送に所属し、ラジオ局の制作部の存在を示し続けてきた、数少ない一人である。サントリーや松下電器など、ラジオ CM に熱心なクライアントの CM 制作に携わり、多くの受賞作を生み出す。映像のないラジオ CM において、音から映像を連想させる CM づくりを貫いた。まさに、ラジオ CM そのものを大きく変えた人である。

<プロフィール>

1969（昭和 44）年から 2006（平成 18）年まで文化放送でラジオ CM 制作に携わる。部署の名称は編成局放送部、営業局 CM 部、営業推進部等々、おりおりの経営方針で変遷を辿ったが、ラジオ CM 企画制作ひとすじを貫きつつ、特別番組を含む番組制作もプロデュースした。その間に ACC 最優秀スポット CM 賞（現：ACC グランプリ）、日本民間放送連盟賞最優秀賞、フジサンケイ広告大賞演出者賞など受賞歴多数。2000（平成 12）年に ACC 創立 40 周年記念番組「民放生まれて 50 年 紅白対抗コマソン歌合戦」を企画演出。全国すべての民放ラジオで放送された。また、1984（昭和 59）年に文化放送主催で「ラジオ CM コピー大会」を企画立案し、故天野祐吉氏が発行人の広告批評と共催し 2005（平成 17）年まで運営した。



秋山晶（あきやま しょう）氏



<選考理由>

延べ 40 年にわたって手がけるキューピーマヨネーズの仕事をはじめ、コピーに書き手の個性を与えるコピーライターとしてその名を知られる。それと同時に、1988（昭和 63）年のジャックダニエル、2003（平成 15）年のキューピーマヨネーズで ACC グランプリを 2 度受賞。それまでの紙芝居的な CM と一変して、印象的なワンビジュアル&ワンコピーを中心にした映像と、洗練された音楽。コピーライターがつくる映像として、CM 自体を大きく変えた人である。

<プロフィール>

1936（昭和 11）年東京生まれ。幼少期よりアメリカの文化に馴染み立教大学経済学部を卒業。大学卒業後に出版社に入社し、宣伝部に配属される。女性誌や小説の帯のキャプション等を手掛けた後 1964（昭和 39）年ライトパブリシティ入社。1965（昭和 40）年には化粧品会社の作品で「TCC 会員賞」「ADC 金賞」を受賞し、コピーライター、クリエイティブディレクターとしての才能を開花させた。本来匿名であるコピーに書き手の個性を与えた第一人者としてその功績を称えられている。2009（平成 21）年東京コピーライターズクラブ、2010（平成 22）年東京アートディレクターズクラブ HALL OF FAME。

郡家淳（ぐんげ あつし）氏





<選考理由>

1982（昭和 57）年に株式会社マザースを設立。あの時代に際立って特別な存在であった。「郡家さんと一緒に仕事がしたい」という若手クリエイターが多数存在し、まさに「プロデューサーでありながらスター」であった。プロダクションビジネスの有り方そのものを変え、新しい CM の作り方を確立。ひいては CM プロデュースの姿そのものを大きく変えた人である。

<プロフィール>

プロデューサー。1947（昭和 22）年長崎市生まれ 成城大学経済学部卒業。1971（昭和 46）年（株）電通映画社入社。1982（昭和 57）年（株）マザース設立。

<CM>レナウン・アーノルドパーマー、ネスカフェゴールドブレンド・違いがわかる男、SONY・カセットテープ、服部セイコー・ゆく年くる年、アサヒビール・ミニ樽、トヨタ自動車・コロナ／クレスタ、サントリー・生樽 一般大衆／贈りもの（♪ 冬のリビエラ）／モルツ球団、パルコ・スタンハンセン／内田裕也、日立製作所・Interface ビデオレター、伊勢丹・世界のフォトグラファー、麒麟ビール・「証言」、アデランス・ハリケーン〔1996年モントルー国際広告賞金賞・ギャラクシーCM賞〕、AGF・マキシムコーヒー（♪ 熱き心に）、日産自動車・新型ブルーバード、NTT 東日本・企業 ことばの石／SMAP、武田薬品工業・タケダ胃腸薬 21（♪ 男と女のラブゲーム）、日本コカコーラ・ジョージア（♪ 明日があるさ）〔2001年 ACC グランプリ〕、NTT ドコモ・ケータイ家族物語〔2003年フジサンケイ広告大賞グランプリ〕、ピエトロ・おいしいサラダ

<MUSIC VIDEO>井上陽水 Make Up Shadow、大貫妙子 Gratefully Yours;2009、RCサクセション FEEL SO BAD、長渕剛 Hungry、TM ネットワーク 金曜日のライオン

<第 6 回クリエイターズ殿堂 選考委員>（五十音順）

選考委員長 杉山恒太郎氏

選考委員 阿部正吉、岡康道、早川和良、林田洋、宗形英作の各氏

以上